



第42回「おかねの作文」コンクール

私の生きたお金の使い方

石川県・北陸学院中学校 2年 小野澤 佳奈

買い物をする時、三つの言葉が頭に浮かびます。それは「私」・「あなた」・「社会」です。どういうことかと言うと、まず「私」が今欲しい物を手に入れてうれしいと思えるかどうか、が最初の基準になります。そしてそれは購入するかどうかの判断の80%をしめます。具体的に言うと、品物に感じる魅力・予算に見合う価格・入手後に期待されるワクワク感などを指しています。次に「あなた」ですが、目の前で接客している店員さんのことです。対応している店員さんが気持ち良く売ることができているかを見ます。これが判断の10%をしめます。レジでお金を払う時、買い手と売り手の双方がニコニコしていたら楽しく買い物ができて、払ったお金が生きてくると思うのです。つまりお金自体はただの物質ですが、使う時に楽しい雰囲気になったらそこには目に見えない付加価値が加算される気がするのです。最後に「社会」ですが、これは支払ったお金が巡り巡って何かの形で社会の役に立つ可能性があるかどうか想像してみるのです。例えば企業の設備や研究開発費にまわされて、より良い品物が作られる可能性が増えた、などと考えることです。これが判断基準の残りの10%です。英語の代名詞のようにまず「私」が居て、目の前に「あなた」が居て、この二人を取り巻く「社会」が存在して誰に対してもプラスに働くと思える時、そのお金は生きた使い方をされていると思います。

経済の考え方の中に「ミクロ経済」というものがあります。これは個人消費や企業の行動分析から始まり、経済全体を見渡す学問だそうです。丁度、森の木を一本ずつ見てゆき、最後に空からヘリコプターで森全体を見渡す、そんな感じだそうです。ここでは、このミクロの経済風に話を進めてみたいと思います。先程、私個人の生きたお金の使い方について述べましたが、もう少し範囲を広げて家庭や地域における生きたお金の使い方を考えてみたいと思います。個人の場合は自分の満足感が基準になりますが、家庭や地域が対象になる場合には一人でも多くの人の利益になるように優先順位が決められるべきだと思います。もし私が公の責任ある立場に立っていたら、それが判断の軸になると思います。しかし優先順

位を決める時、どこに政策の重点を置くかが問題になります。例えば自分が住んでいる市町村に多額の負債があるならば、まずその借金を減らしていく方法を考えます。私の住んでいる石川県小松市では、市の職員のボーナスを数%減らして、全体としてはかなりの赤字額を減らしました。これはまさに、その好例だと思います。自分達の子供や孫に重税を負担させたくないと思うと誰でも考えると思います。負債を減らすこともある意味では、将来大多数の利益になり、有意義なお金の使い方になると思うのです。このように負債削減を第一にして雇用を増やしたり、福祉や育児支援を充実させたりと、その地域の実情に合った分野に予算を増やせると良いと思います。世の中を動かしているものの一つは人の思い・考えだと思っておりますが、それに先立つものはお金であると感じています。

「アメリカがくしゃみをすると、日本が風邪をひく」といわれるくらい日本の経済は、アメリカの影響を受けているそうです。それもそのはずで現在アメリカのGDP(国内総生産)は世界の約2割をしめています。しかし、これ程優位に立っているにもかかわらず、アメリカの大不況は収まらず、オバマ大統領は経済政策に力を入れています。特に現在の「民間保険」しかない状況から「公的保険」へとチェンジすることが最優先課題となっているそうです。この公的保険とは仕事に就いていなくても保険が適用されるもので、国民にもその費用の一部が負担となるそうです。国全体のために国民の一人一人が痛み分けをしてこそ国が成り立つと、オバマ大統領は言っているようです。幸いなことに日本は国民皆保険です。けれども世界経済、特にアメリカの影響を受けて日本もまた、100年に一度と言われる不況に見舞われています。個人・企業レベルで大変な努力が続いていると思うのですが、私達庶民も自分達にできる範囲で痛み分けをする覚悟が必要な時代が来ていると思います。1億3000万人を乗せた日本丸が沈まないよう、日本人がお互いに助け合えるようにお金を使えたら最高に生きたお金になると思います。「私」と「あなた」と「社会」、皆が喜べますように。

